

2004年度ポスト京都 ～Beyond*_*maico～

有野
佐々木
代田
maico
宮本

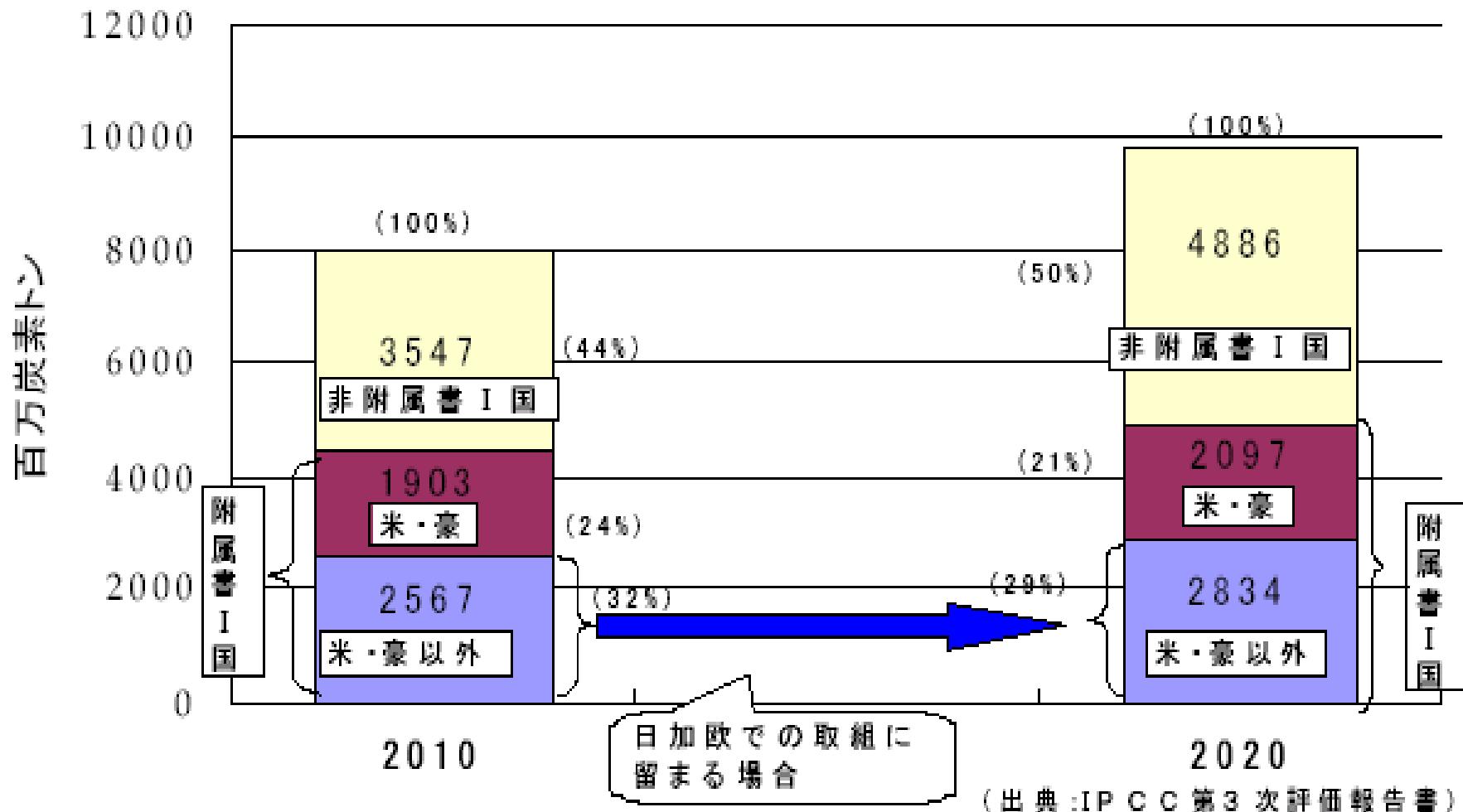
去年の論文

- 目標: 参加国の排出量を1/3以上へ
- アプローチ: 途上国の参加問題の解決
→米国の参加

提案

- 経済的手法: キヤップ＆トレード
- 初期割当: セクター毎の排出効率をもとに
排出実量を積み上げて決定(ボトムアップ)
- 途上国の参加問題: 途上国卒業制度
- 不遵守の対応: 支援的

世界の二酸化炭素排出量見通し



途上国参加問題

タイミングの問題

途上国

一人当たりGDP : 1990年の先進国の半分に達したら目標値設定
75%の時、付属書Ⅰ国入り

しかし、中国・インドのような主要排出国が付属書Ⅰ国入りするのは今世紀中頃以降

よって、主要排出国については過去・現在・将来の排出総量をもとにグループ分け

中国は第一グループ(must act now)
おそらくインドも。

去年の論文

- 目標: 参加国の排出量を1/3以上へ
- アプローチ: 途上国の参加問題の解決
→米国の参加
- 不明確な点
- 最終的に全世界の排出量を何年までにどれだけ確保できるのか

今年のポス京

- 究極の目標は...

550ppmでの濃度の安定化

なぜ550ppm？？？
どうやって？？？

今年のポス京

- 550ppmでの安定化のために...

途上国の参加の必要性

→如何にして途上国を参加させるか検討。

Allocationについて。

- ブラジル提案
- C&C

今年の論文の目標設定

◆2100年の濃度安定化

Ex. 550ppm



- 参加国の排出量を1/3以上へ
- 厳しいキャップを負う可能性
- 時間的制約の発生

- 初期割当の方法論
 - ①ボトムアップ、CO₂原単位をもとに実量割当
コスト重視、実現可能性高い
 - ②ブラジル案(過去の排出量をもとに割当)
科学的根拠あり、コスト不確実
 - ③C & C

タイミングの方法論

- ①途上国の人当たり所得が一定水準に達したとき
+ 主要排出国については過去・現在・将来の排出量をもとに
タイミングを決定
- ②新たな視点？

途上国の参加にさいして

アメ

- 資金供与・技術移転
- CDM
- Ancillary Benefits

主要排出国 の 枠組み

- 日本、米国、中国、インド、ロシアなど
- タイミング：一斉参加 cf. 去年の論文
- 初期割当：未定
- 経済的手法の自由度UP
 - e.g. 排出権取引、ハイブリッド、税

課題

- その他の途上国の参加のタイミング
- EU、EITの取り扱い

- マクロ
国家間交渉
- ミクロ
産業・運輸・民生
e.g.鉄鋼業界の国際的取り組み IISI